

(3) フロストシーディングによる簡易更新（作溝法）

場所：別海町西春別

時期：平成19年11月上旬

は種：チモシー 2.0kg + アルファルファ 0.1 kg = 2.1kg/10 a

処理面積：1.5 ~ 2.0 ha/hr 程度

9月中旬 2番草収穫後、再生10cm程度の草丈時に枯殺処理
※枯殺処理は、は種1ヶ月前までに終わらせておく

11月8日 は種・鎮圧 [図26]
※平均気温5℃以下が続く時期に入ってから行う
(11月上旬以降が望ましい)

※ハーバーマットの種速度は5~7 km/h程度
は種深度は1 cm程度と浅い。条間は8 cm
※当事例では鎮圧を行わなかったが、鎮圧を推奨する

翌年6月上~中旬 発芽し、草丈が15cm位に生育してから春施肥を行う



図26 は種 (11/8)



図27 発芽の様子 (翌年5/16)



図28 生育の様子(6/3)



図29 草丈20cm位(6/23)
ナズナが目立ってきた



図30 1回目の刈取り(7/3)
掃除刈りを兼ねて

●フロストシーディングの特徴

- ・初冬期には種し、発芽させず種子のまま越冬させる技術
- ・発芽は春には種するよりも早く、雑草との競合に有利
- ・忙しい春作業の分散になる

●100%安定した技術ではない

- ・傾斜地などには適さない
- ・は種後、平均気温5℃以上が続くと種子の吸水や発芽などにより腐敗・枯死する